

## 公共事業事前評価調書(事前評価1)

事業名	ボートレース若松施設整備事業						
事業箇所	北九州市若松区赤岩町 13 番 1 号	事業期間	令和 2 年度～ 9 年度				
実施主体	市（公営競技局）	担当課	公営競技局ボートレース事業課 (TEL:791-3400)				
全体 事業費 (概算)	6, 6 1 1 百万円	事業費 財源 内訳 (百万円)	ボートレース 事業収益	一般財源 (税等)	BR振興会 助成金	国庫補助 (環境関連)	企業債
	【内訳】 (百万円) 西スタンド棟他の改修 5, 085 地域貢献エリアの新設 1, 200 設計費等 326		6, 318	0	293	検討中	0
関連する 市の計画	北九州市公営競技事業経営戦略（以下「経営戦略」という。）						
事業目的	<p>公営競技局では、ボートレース（以下「BR」という。）事業を実施し、その収益金の一部を一般会計に繰り出し、市民生活の充実・利便性の向上等に寄与しているところである。今後も事業の継続を行い、将来にわたり安定的に収益金を確保し、本市のまちづくりに貢献していくためには、BR事業の基盤となるBR場の計画的な改修が必要となる。加えて、BR事業の公益性を発信し、イメージアップを図り、BR事業に対する市民理解の促進に取り組んでいくことも重要となる。</p> <p>本事業は、築 25 年以上が経過し、維持管理面や来場者サービス面等で老朽化による支障が生じている西スタンド棟の大規模改修に合わせ、BR若松が保有する施設全体の在り方を戦略的に見直す。</p> <p>また、ボートレース業界が推進している施設全体のボートレースパーク化※1を他のレース場に先駆けて実現することで、経営戦略に掲げる3つの将来像※2の同時実現を目指すものである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 西スタンド棟に快適な観戦ができる環境を整備することで、既存ファンの定着と新たなファン層を開拓する機能を強化し、本場の集客力を高める。</li> <li>○ SGやGIなどのグレードの高いレース開催日以外は遊休スペース化している駐車場等を、市民がいつでも気軽に利用できるエリアに転換することで、本場のイメージアップとBR事業に対する市民理解を促進する。</li> </ul> <p>※1 BR場をスポーツ・文化の発信基地や地域住民の健康増進・憩いの場として、地域との共生を目指すもの。本場活性化策として、BR業界全体で推進している。</p> <p>※2 将来像Ⅰ【売上】選ばれるレース場 将来像Ⅱ【運営・財務】健全な経営・信頼されるレース場 将来像Ⅲ【地域・社会貢献】親しまれるレース場</p>						

<p>事業概要</p>	<p>1 西スタンド棟他の改修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 西スタンド棟は築25年以上が経過しており、今後増大する維持管理費を削減するため、雨漏り対策など基本的な改修工事を実施する。</li> <li>○ 年間20万人にも及ぶ来場者の安全性を確保する。</li> <li>○ 既存ファンのニーズに応える上質で快適なエリアを整備する。</li> <li>○ 女性やファミリーなど、新たなファン層を開拓するアミューズメント空間へリニューアルし、ポートルースの新しい楽しみ方を提案する。 (西スタンド棟は、レース開催の支障となる強風や西日を遮断し、騒音の拡散防止機能を有している。)</li> </ul> <p>2 地域貢献エリアの新設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 子どもから大人まで気軽に遊びに来られる場所として、東スタンド棟前の駐車場(12,000㎡)の敷地を活用して、スポーツをテーマとした地域貢献エリアを整備する。</li> </ul> <p>&lt;例示&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 芝生広場やスポーツ利用等が可能な多目的広場</li> <li>・ 親子連れで楽しめる屋内施設(現外向発売所の改修:新わかかわくらんど、ファミリーピット棟の改修:現ボルダリングパーク拡充)、屋外施設(噴水等)</li> <li>・ 飲食や休憩用施設の新設</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 多くの人が集う、地域にとってかけがえのない場所を目指す。</li> <li>○ 地域貢献活動、健康づくり、子育て支援の場の充実。</li> <li>○ 屋内外スペースが活用でき通年利用が可能となる。</li> <li>○ 若松区の新たなにぎわい拠点を創出する。</li> <li>○ 施設全体の景観を向上させる。</li> </ul>
<p>事業実施の背景(社会経済情勢、これまでの経緯)</p>	<p>1 本場入場者数の減少と新規ファンの獲得</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 良好な経営状況であるが、広域発売が好調な一方、本場入場者数は全国的に大きく減少する傾向となっている。</li> <li>○ 本場入場者数の減少は、これまで本場が担ってきた新規ファンの創出機能が低下していることを意味し、将来の事業継続の面で大きな課題となっている。</li> <li>○ ライブでレースを観戦し、BRの魅力を実験してもらうことが新規ファンの獲得に重要である。</li> <li>○ 施設整備等により本場活性化を推進し、新規ファンの来場促進を図ることが、BR業界から強く求められている。</li> </ul> <p>2 良好な経営状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本市BR事業の年間発売額は、一時期の落ち込みから回復し、平成25年度以降は、電話投票及び場外発売といった広域発売の拡大化の進展に伴い、毎年度600億円を超え、令和2年度は1,000億円の大台に乗り好調期に入っている。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 年間発売額の拡大によって、収益も安定的に確保できており、平成 30 年度の地方公営企業化以降、純利益、単年度資金剰余、累積金剰余いずれも黒字である。</li> <li>○ 一般会計繰出金も平成 20 年度から再開し、直近 5 ヶ年（合計 141 億円）は以下のとおりであり、本市財政に貢献しているところである。 H29 : 35 億円 H30 : 15 億円 R1 : 15 億円 R2(予算) : 26 億円 R3(予算) : 50 億円</li> <li>○ 本整備事業の事業費財源は、ボートレース事業による収益事業でまかなうことから、一般財源（税等）の負担は生じない。</li> </ul> <p>3 経営戦略の取組とボートレースパーク化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 公営競技局では、平成 30 年 4 月の地方公営企業へ移行後、中長期的な視野も踏まえた経営を行っていくため、平成 31 年 3 月に「経営戦略」を策定し、3つの目指すべき将来像を掲げた。</li> <li>○ 経営戦略の策定にあたっては、BR 業界全体で推進するボートレースパーク化が本場の活性化による将来を見据えた持続可能な戦略であることを踏まえ、全ての将来像を横断する主要な取組として位置付けている。</li> </ul> <table border="1"> <tr> <td>将来像Ⅰ 【売上】</td> <td>選ばれるレース場</td> <td>売上を確保していくためには、若松の舟券をボートレースファンに買っていただくこと、BR 若松に足を運んでいただくこと等が重要</td> <td rowspan="3">ボート レース パーク化</td> </tr> <tr> <td>将来像Ⅱ 【運営・財務】</td> <td>健全な経営・信頼されるレース場</td> <td>本市収益事業としての責務を果たす業務運営・財務運営</td> </tr> <tr> <td>将来像Ⅲ 【地域・社会貢献】</td> <td>親しまれるレース場</td> <td>将来にわたりBR事業を持続させるには、事業のイメージアップと市民理解の促進が不可欠</td> </tr> </table>	将来像Ⅰ 【売上】	選ばれるレース場	売上を確保していくためには、若松の舟券をボートレースファンに買っていただくこと、BR 若松に足を運んでいただくこと等が重要	ボート レース パーク化	将来像Ⅱ 【運営・財務】	健全な経営・信頼されるレース場	本市収益事業としての責務を果たす業務運営・財務運営	将来像Ⅲ 【地域・社会貢献】	親しまれるレース場	将来にわたりBR事業を持続させるには、事業のイメージアップと市民理解の促進が不可欠
将来像Ⅰ 【売上】	選ばれるレース場	売上を確保していくためには、若松の舟券をボートレースファンに買っていただくこと、BR 若松に足を運んでいただくこと等が重要	ボート レース パーク化								
将来像Ⅱ 【運営・財務】	健全な経営・信頼されるレース場	本市収益事業としての責務を果たす業務運営・財務運営									
将来像Ⅲ 【地域・社会貢献】	親しまれるレース場	将来にわたりBR事業を持続させるには、事業のイメージアップと市民理解の促進が不可欠									
事業 スケジュール	<p>令和 2 年度 ～令和 3 年度上半期：基本計画、事前評価 1</p> <p>令和 3 年度下半期～令和 4 年度：基本設計、事前評価 2</p> <p>令和 5 年度 ～：実施設計（施設ごとに設計）</p> <p>令和 6 年度 ～：順次工事着手</p> <p>令和 7 年度 ～：地域貢献エリア等、順次供用開始</p> <p>令和 9 年度：西スタンド棟供用開始</p>										
事業 の 目 標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>成果指標名</th> <th>基準年次</th> <th>基準値</th> <th>目標年次</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1日あたりの本場入場者数</td> <td>令和元年度</td> <td>930人</td> <td>令和12年度</td> <td>1,200人</td> </tr> </tbody> </table>	成果指標名	基準年次	基準値	目標年次	目標値	1日あたりの本場入場者数	令和元年度	930人	令和12年度	1,200人
	成果指標名	基準年次	基準値	目標年次	目標値						
1日あたりの本場入場者数	令和元年度	930人	令和12年度	1,200人							
目標 1	<p>【指標設定理由】</p> <p>西スタンド棟を改修することで、既存ファンの定着と新規ファン層（女性や若者、ファミリー、カップル等、新たなファン層）の拡大を図り、本場来場者を増加する。</p> <p>目標値は、西スタンド棟供用開始 3 年後の普通開催において基準値の約 30%アップとする。</p>										

事業の必要性	目標2	地域貢献エリア年間来場者数	令和元年度	延べ 55,000人	令和7年度	延べ 150,000人																															
		<b>【指標設定理由】</b> 舟券購入以外の目的でも、子どもから大人まで、特に親子連れが気軽に安心して遊べる地域貢献エリアを新設することで、ボートレース場のイメージチェンジを行い、新たな賑わい拠点を目指す。 目標値は、現在の親子連れで楽しめる屋内施設（わかわくらんど、ボルダリングパーク）の年間利用者数を基準値として、地域貢献エリア供用開始後に3倍とする。																																			
	目標3	B R 若松イメージ調査 (気軽に行きやすい)	平成30年度	71% 15%	令和12年度	90% 90%																															
<b>【指標設定理由】</b> ボートレースパーク化により、舟券購入以外の目的でも気軽に遊びに行きたい場所を目指す。 目標値は、イメージ調査で舟券購入経験者（基準値の上段）、未経験者（基準値の下段）ともに、西スタンド棟供用開始3年後の調査で90%とする。																																					
現状と課題	1 西スタンド棟の老朽化 築25年以上が経過し、設備関係の更新時期を迎えており、今後、維持管理費の増加が見込まれる。また、新規ファンのニーズとミスマッチな環境であるため、新規ファン層を呼び込む魅力を付加する必要がある。さらに年間20万人にも及ぶ来場者の安全性を確保しなければならない。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 雨漏りや内装の劣化等</li> <li>○ ファンのニーズとミスマッチな観戦環境             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中央入場口等の近寄りづらいイメージ</li> <li>・ ロイヤル席の利用率低下</li> <li>・ 女性や若者、ファミリー、カップル等への対応エリアなし など</li> </ul> </li> </ul>																																				
	2 保有資産の有効活用 有料席の一部に未使用エリアが存在すること。 また、長年にわたる入場者数の減少に伴い、駐車場の利用状況は繁忙期で半分程度、G I 開催時でさえ2/3程度の利用状況であり、遊休スペースの有効活用が課題である。 400台分の駐車スペースを地域貢献エリアに有効活用した場合、駐車場利用率の向上が図られるとともに、駐車場不足は生じない見込み。																																				
		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th rowspan="2">駐車台数</th> <th colspan="2">通常時</th> <th colspan="2">繁忙期</th> <th colspan="2">G I 開催時</th> </tr> <tr> <th>利用台数</th> <th>利用率</th> <th>利用台数</th> <th>利用率</th> <th>利用台数</th> <th>利用率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>現 状</td> <td>2,400</td> <td>800</td> <td>33%</td> <td>1,200</td> <td>50%</td> <td>1,600</td> <td>67%</td> </tr> <tr> <td>地域貢献エリア新設後</td> <td>2,000</td> <td>900</td> <td>45%</td> <td>1,400</td> <td>70%</td> <td>1,800</td> <td>90%</td> </tr> </tbody> </table>							駐車台数	通常時		繁忙期		G I 開催時		利用台数	利用率	利用台数	利用率	利用台数	利用率	現 状	2,400	800	33%	1,200	50%	1,600	67%	地域貢献エリア新設後	2,000	900	45%	1,400	70%	1,800	90%
	駐車台数	通常時		繁忙期		G I 開催時																															
		利用台数	利用率	利用台数	利用率	利用台数	利用率																														
現 状	2,400	800	33%	1,200	50%	1,600	67%																														
地域貢献エリア新設後	2,000	900	45%	1,400	70%	1,800	90%																														
		3 地域貢献及びイメージアップの拡充 現在、小学生までを対象とした屋内施設や地域活動等で利用できる地域交																																			

	<p>流施設クレカ若松を整備し、地域貢献を通じたイメージアップに取り組んでいる。今後は、より幅広い世代に対応した地域貢献活動でBRの公益性を更に発信する。</p> <p>また、広域発売化が進展する中で、全国のBR場と足並みをそろえて、BR業界全体のイメージアップにも取り組んでいく必要がある。</p>
将来需要（将来にわたる必要性の継続）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ファンの来場促進により、将来にわたる安定的かつ継続的な収益確保のための投資が必要である。</li> <li>○ 来場者が増加し、声援が増えることによるボートレーサーのモチベーション向上に繋がる。</li> <li>○ ボートレーサーを目指すファンを増やすための迫力あるレースを観戦できる環境整備が必要である。</li> </ul>
市の関与の妥当性	<p>BR事業は、モーターボート競走法において地方自治体に対して認められた収益事業であり、北九州市公営競技局の責任のもと施設を整備する。</p>
事業の緊急性	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 西スタンド棟は築 25 年以上が経過し、各所の雨漏り対策や諸設備の改修、強風時には外壁パネルの一部がはがれるなど安全確保や施設維持管理の面から、緊急かつ抜本的改修が必要であること。</li> <li>○ イメージアップに取り組むうえで、早期にボートレースパーク化へ着手することにより、より早くその効果が得られること。</li> <li>○ BR振興会のボートレースパーク化に対する助成金約 3 億円の活用が可能な時期であること。</li> </ul>
事業の有効性	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 西スタンド棟の老朽化解消により、来場者の安全性を確保する。</li> <li>○ 既存ファンの定着と新規ファン層の拡大によって、本場入場者数が増加し、将来の売上拡大につながるとともに事業の持続可能性も高まる。</li> <li>○ 保有資産の有効活用と地域貢献機能の拡充が同時に実施できる。</li> <li>○ 太陽光パネルなどの創エネ、省エネ設備の導入による、ランニングコストの削減に寄与する。</li> <li>○ 地域貢献エリア内のテーマをスポーツとし、現在ある屋内施設やクレカ若松とともに、子どもの健全な成長や子育ての支援、スポーツや健康づくりの場の充実を図ることが可能である。</li> </ul>
事業の経済性・効率性・採算性	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 事業費の財源は、BR事業の収益金であり、令和4年度までに所要額が確保できる見込みである。なお、本事業の実施により、経営戦略において目標に掲げた一般会計繰出金への影響は生じない見通しである。</li> <li>○ 施設整備に伴い「G 1 ダイヤモンドカップ（売上約 90 億円）1 回」や「SG レース（売上約 160 億円）2 回」等のビッグレース誘致に繋がる。</li> <li>○ 施設整備に伴う効果として、経営戦略前期中期計画における 5 年間分の試算では、公営競技局としては収益金 1 1 億円の増となり、北九州市は一般会計繰入金 8 億円の増となる。</li> </ul>

<p>複数案及び 対応方針案</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 西スタンド棟については、築25年以上が経過し老朽化しており、緊急度に応じて小規模修繕を重ねる現状と比較して、大規模改修を行うことで今後の維持管理費の削減につながるとともに来場者の安全も確保できる。</li> <li>○ 地域貢献エリアを新設することにより、幅広い世代の市民に利用される施設となり、賑わいが創出されるとともに、保有資産（駐車場）の有効活用が図られる。</li> <li>○ また、これらの取り組みにより業界への貢献が評価され、多大な収益をもたらすビッグレースの誘致に繋がることから、西スタンド棟の大規模改修と地域貢献エリアの新設をする整備事業を推進する。</li> </ul>
<p>事業の熟度</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 BR若松の施設全体を対象とした改修に関する基本構想の策定 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ BR振興会の本場施設改革改善相談室がアドバイザー参画</li> <li>○ 施設全体の現状分析、課題把握</li> <li>○ 来場者及び非来場者へアンケートを行い、ニーズ調査を実施など</li> </ul> </li> <li>2 BR若松の施設全体を対象とした改修に関する基本計画の策定 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ BR振興会の本場施設改革改善相談室がアドバイザー参画</li> <li>○ 敷地全体及び各施設の機能構成等検討</li> </ul> </li> <li>3 関係者及び地域住民等からのヒアリング <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日本モーターボート競走会、日本モーターボート選手会等へのヒアリングを実施</li> <li>○ 施設整備の概要について、BR若松周辺対策運営協議会にて意見交換を実施</li> </ul> <p>※地域の声：「地域貢献活動の推進に期待する」、「孫を連れて遊びに来たい」など</p> </li> </ol>
<p>環境・景観 への配慮</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 環境への配慮 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 公営競技局独自で定めた「公営競技局SDGs経営宣言」の取組に沿って創エネや省エネ設備の導入、フロンガス排出抑制等環境負荷の低減に積極的に取り組む。</li> <li>○ CASBEE北九州の上位評価を目指す。</li> <li>○ 環境アセスメント（北九州市環境影響評価条例）の対象事業（大規模建築物：延べ床面積10万m<sup>2</sup>以上、高さ100m以上）には該当しない。</li> </ul> </li> <li>2 景観への配慮 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 北九州市景観づくりマスタープランに基づくものとする。</li> <li>○ 近寄りがたさ、閉鎖的等の負のイメージを払拭し、本場周辺環境に好印象をもたらすような夜間のライトアップを含め、地域に親しまれる景観の形成に積極的に取り組む。</li> </ul> </li> </ol>